

NCC10 審査員特別賞展

若手の展覧会企画者を対象とした「New Creators Competition 2010」において選出された、2組の審査員特別賞の受賞作品をご紹介します。

『メタリックくまシリーズ 愛と激突』

企画者：久保田清人

『Grow Ups』

企画者：Renee Reijnders (オランダ)

2010年3月6日(土) - 27日(土)
主催／静岡市クリエイター支援センター

タイトル：

NCC10 審査員特別賞展

『メタリックくまシリーズ 愛と激突』 『Grow Ups』

会期：2010年3月6日(土) - 27日(土) (日・祝日休み)

開場時間：10:00-20:30

会場：静岡市クリエイター支援センター 3F

主催：静岡市クリエイター支援センター

審査員：しりあがり寿 (マンガ家)、五十嵐太郎 (建築家)、
タナカカツキ (マンガ家)、久米英之 (CCC プロ
デューサー)、大森久美 (CCC キュレーター)

入場料：無料

関連企画：

ギャラリートーク展 (無料 / 要予約)

2010年3月6日(土)

13:00-14:30 / Renee Reijnders、

15:00-16:00 / 久保田清人

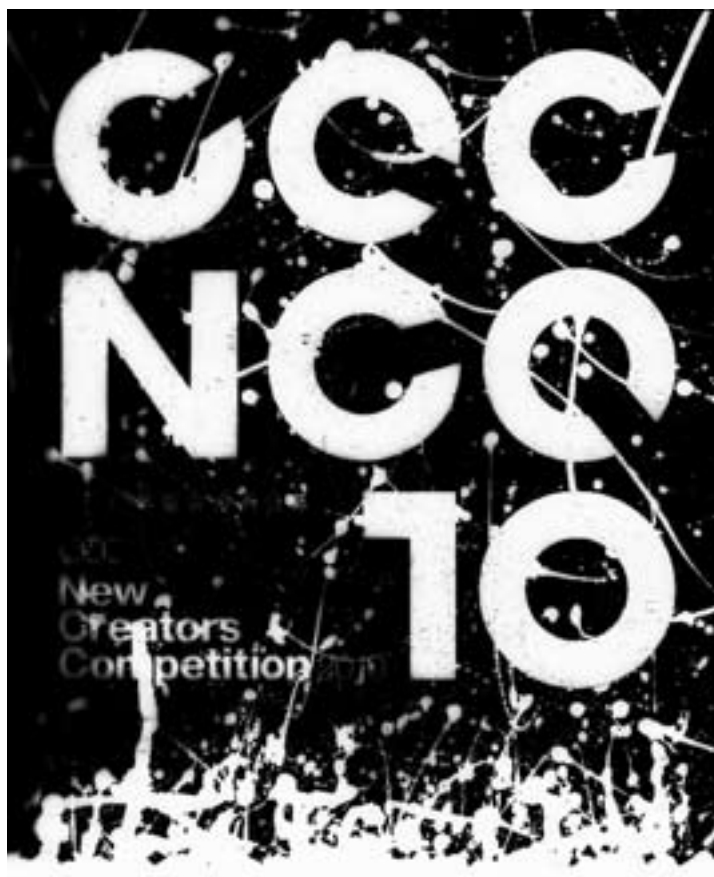
■本展についてのお問い合わせ

静岡市クリエイター支援センター CCC
〒420-0853 静岡市葵区追手町4番16号
tel : 054-205-4750

e-mail : info@c-c-c.or.jp

website: www.c-c-c.or.jp/

広報担当：加藤、大森



『メタリックくまシリーズ 愛と激突』

企画者：久保田清人（静岡市）



□コンセプト

何処へ行く?—もともと鎧を作るために編んでいた座金、それが何故”くま”という形をとるようになったのか、私は最初その変化にとまどった。自分自身、座金は鎧のインナー(鎖かたびら)として使うことしか頭になかった。そもそも余った座金で何か作ってみようと思ったのがはじまりである。ちょうど形がわかりやすい熊でもやってみるかと思ってしまったのだ。作って見ると以外に楽しい。かたびらを編んでいた時とは明らかに違う何かが生まれた。座金にこんな使い方もあったのかと新鮮な喜がそこにはあった。きっと素材が教えてくれたのだろう。そういえば鎧を作り初めた頃ば「ゲリスリースーツ」のことをよく考えていた、「ゲリスリー→ヒグマ→くま」と鎧とくまとは関係ないようで実はあったのかもしれない。何はともあれ今回は”くま”が主役のくま展にしたいと思う。新鮮な驚きと可能性をくれた熊に幸あれ。完 (久保田清人)

□プロフィール:久保田清人 (くぼた すみと)

1984年 静岡市清水区生まれ
2007年 名古屋造形芸術大学卒業

主な展覧会

2008年 「久保田清人展」伊勢現代美術館 など

□関連企画 ギャラリートーク

2010年3月6日(土) 15:00-16:00 (無料 / 要予約)
場所:CCC3F

□審査員講評

久保田清人は、インタビューのとき、実作をもってきたことが良かった。鎧よりも、ひたすら座金を編んだ作品に迫力があるからだ。ガードマンの奥村綱雄が夜警のあいだに刺繍を行うのに対し、久保田が金属の編み物で巨大な作品を仕上げれば、インパクトがある。さらに西尾康之のような強迫観念、あるいは榎忠のような精度も必要かもしれない。

(五十嵐太郎 / 建築評論家・建築史家)

久保田さんは、相当な手間をかけて尋常でない重さのクマをつくり続ける作業は「カワイサ」と「強さ」を目指し、「異形」のものが表れる、何か現代にとってとてもリアルなテーマが潜んでる気がします。ただまだまだ作品的にはスタートライン。今後に期待です。

(しりあがり寿 / 漫画家)

座金に取り憑かれた男…そんな人、はじめてみました。今後、期待できるお方です!

(タナカカツキ / 漫画家)

「見たことがないもの」であることは確かである。それは作品と久保田さん自身のキャラ両方に言えることであるが、放っておけない何かがある。ロンドンのイーストエンドあたりでウケるかもしれないし、ファッションブランドとのコラボもイケるかも、・・・など、勝手に想像を膨らませてしまうのは私だけだろうか。いずれにしても素材ともしっかりと格闘して欲しい。「大きい作品は1年かかる」と言うことだが、1年で2年でも待ちましょう。

(大森久美 / CCCキュレーター)

『Grow Ups』

企画者：Renee Reijnders (オランダ)



□コンセプト

富覧会のタイトル「Grow-ups」は、11人の参加アーティストが大人になる(英語では "grow up") という、彼ら自身がアート通して自分が心安らぐ子供のような世界を作るという意味である。その未熟な精神性の表現の裏には大人というテーマがある。本展では、世界のポップカルチャーとデザイン、または日本のマンガ、アートや消費文化に大きく影響を受けたオランダの若いアーティストの作品を紹介する。また伝統的なオランダと他国のビジュアル方法の違いによるテンションやナイーブ【未熟】精神と現代のグローバルで商業化された社会とのテンションを考察する。(Renee Reijnders)

□プロフィール:Renée Reijnders

1974年 ヌトレヒト生まれ。
1998年 Faculty of Fine Arts Utrecht,
1999年 Faculty of Art, Media and Technology
Hilversum 卒業

□参加作家

Merijn Hos, Cirque de Pepin, Iris, Ingrid de Lugt, Nanna Koekoek, Wayne Horse, Lennard Schuurmans, Mark Verhaagen, Leendert Masselink, Bjorn Eulink, Manumanu

□関連企画 ギャラリートーク

2010年3月6日(土) 13:00-14:30 (無料 / 要予約)
場所:CCC3F

□審査員講評

オランダの Renée Reijnders の提案はキュレーションの視点を持ち、今回の応募作のなかで、コンセプトをもっとも明快に打ちだしており、好感をもった。と同時に、アートとサブカルチャー、日本やアメリカとの関係など、さらに洗練させていく余地もある。もう少し時間をかけてから、日本での展示を是非、見たいと思うプロジェクトだった。

(五十嵐太郎 / 建築評論家・建築史家)

オランダからの Reijnders Renee さん、そのクオリティーや、作品のバラエティー、熱意等に感服。

(しりあがり寿 / 漫画家)

キャラクター大国日本で、さらなる飛躍が期待されます。

(タナカカツキ / 漫画家)

はじめての海外からの応募である。キャラクター大国日本に向けて、あえてキャラクター企画で挑戦してくれた彼女の心意気とそのバイタリティーに感服する。しかしながら、コンセプトである「GROW-UPS」と影響を受けたサブカルチャーとの関係性が曖昧だと感じた。彼女自身キュレーターであり、またアーティストでもあるという。昨年同様、応募企画のほとんどがアーティストの個展又はグループ展だったことから、キュレーター分野で新たな流れが起きているのかもしれない。

(大森久美 / CCC キュレーター)

静岡市クリエイター支援センター (CCC) へのアクセス



■ JR 静岡駅から
徒歩 10 分 / タクシー 5 分

■ 自動車利用
東名高速道路で静岡 IC から 15 分

■ 新幹線
新幹線で JR 品川駅から 1 時間 (ひかり)、JR 静岡駅下車
新幹線で JR 名古屋駅から 1 時間 (ひかり)、JR 静岡駅下車

静岡市クリエイター支援センター (CCC)
〒420-0853 静岡市葵区追手町 4 番 16 号
TEL. 054-205-4750 FAX. 054-293-4332
MAIL. info@c-c-c.or.jp